

# 元気な高齢者介護ボランティア 活動の手引き

「介護ボランティア」のモニターにご登録いただきありがとうございました。

現在、65歳以上の市民が、介護保険施設等でボランティア活動を行った場合にポイントが得られ、たまったポイントに応じて換金や寄付ができるボランティアポイント制度が、自治体、住民組織等との協働・連携による日常的な支えあい活動の視点からも、有効であるとの指摘があります。

神奈川県では、今後、急速に高齢化が進む中、ボランティアポイント制度が、社会貢献活動を志す高齢者がボランティア活動を始めるきっかけや、活動への顕彰、あるいは活動する本人の介護予防にもつながる有意義な制度であると考え、全県域への普及・拡大を目指し、「元気な高齢者介護ボランティアポイント制度調査研究事業」を実施することといたしました。

具体的には、県内の8市町の地域の市民や施設等にモニターとなって3か月間ボランティア活動を試行していただき、その効果を検証させていただきます。

なおこの事業は、神奈川県が事務局の業務を社団法人かながわ福祉サービス振興会に委託して実施します。

この手引きでは、介護ボランティアの皆様に実施していただきたいこと、実施上の留意点などを記載いたしましたので、よろしくお願いいたします。

## I 制度の概要

### 1 介護ボランティアの対象者について。

満年齢が65歳以上で、下記の地域にお住いの市民（＝介護保険の第1号被保険者）が介護ボランティアの対象者です。

秦野市、厚木市、大和市、南足柄市、大井町、松田町、山北町、開成町

### 2 ポイントについて。活動カレンダーの記載について。

介護ボランティアに登録されたボランティアが、お住いの市町内にある受入施設等でボランティア活動を行った時にポイントを付与します。

介護ボランティアの登録していただいた際に、「ポイントカード」と「活動カレンダー」をお渡しします。

受入施設等でボランティア活動をする際に、ポイントカードをお持ちいただき、活動終了時に施設の職員に提示してください。

施設等の職員が施設に設置してあるカードリーダーで1回の活動につき200ポイントをポイントカードに登録してお返しします。

ボランティア活動からお帰りになりましたら、「活動カレンダー」に活動日、

時間帯、活動場所及び活動内容を記録してください。（「活動カレンダー」は、実施期間終了後の平成24年3月に、ポイントカードと一緒に事務局に送っていただき、活動の実績がポイントに適正に反映しているかを調べることに使用します。）

**※ 活動日当日にポイントカードをお持ちでない場合、後日その日の分のポイントを登録することはできませんので、ご注意ください。**

### 3 対象となる活動内容

ポイントの対象なる活動は、受入施設等に指定された施設や団体の場所で実施されるボランティア活動全般です。

ただし、次のような活動は、ポイントの対象とはなりません。

① ボランティアが居住する市町以外の区域の施設等での活動。

（例：秦野市にお住いの介護ボランティアが、松田町の受入施設等で活動した場合。）

② 演奏会など、その活動に対して、施設等から報酬・謝金等が支払われる活動。

（ただし、交通費、活動中の食事や原材料費など、実費相当額の範囲内で支給されるものは、報酬・謝金とは考えません。）

③ 民生委員・消防団員等、自治体からの委嘱を受けた方が、活動費等を支給されて、委嘱された立場・役割で行う活動。

④ 受入施設等の主催事業でない活動。

（例：施設の会議室等を借りて行うグループの自主的な演奏会など。）

⑤ もっぱらボランティアの親族等に対する活動。

### 4 ポイントの換金はいりません

横浜市、相模原市など、すでに介護支援ボランティアポイント制度を実施している市では、蓄積されたポイントを現金への換金等を行っています。

今回の事業では、活動の実績（累積ポイント）の把握は行いますが、換金はいりません。

なお、介護ボランティアとして協力いただいた方には、実施期間終了後、ポイント高に応じてかながわ産品を贈呈します。（産品の内容は、平成24年2月、介護ボランティアの皆様全員にご案内いたします。）

**！ポイントカードの取扱いについて！**

お渡ししたポイントカードには、カードのID番号と付与ポイント数のみ登録されています。

氏名、住所など、個人が識別できる情報は登録されていません。

ポイントカードが届きましたら、カードの裏面に油性ペンでお名前をお書きください。

※ ポイントカードを磁気に近づけたり折り曲げたりしないように注意してください。

## Ⅱ ボランティア活動について

1	<b>ボランティア活動の特徴</b>
---	--------------------

ボランティア活動は特別な活動ではありません。自分から進んで、自分のできる範囲で活動することが基本です。

わが国では、平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災の時に、全国から多くの市民がボランティアとして駆けつけ活動しました。この時を契機にボランティア活動の意義が多くの人に認識され、また若者の参加も増えたと言われています。

さらに平成23年3月11日に発生した東日本大震災に際しても、外国も含め多くの人々が、現地に行き、あるいは住んでいる場所で、それが当たり前のように支援活動に参加するようになっていきます。

### 1 知識や経験を活用できる

これまであなたが培ってきた知識や経験は大きな財産です。それを生かすことで、社会や他人に役に立つことを実感したり、元気をもらうことができます。自分ができること、やりやすいことから活動を始めてみましょう。

### 2 新たなつながり、楽しみができる

これまで知らなかった人や施設と出会い、そこで新しい友人や知識を得ることができます。日常生活に新たな楽しみや目標ができます。

### 3 自分の健康増進にも

活動の場が増えることにより、体や頭を使う機会も増え、体の健康や心の若さの維持につながります。

### 4 市民性を大切に

それまで社会的な地位・立場があってもなくても、ボランティア活動に参加する場合は一人の市民です。縦の関係ではなく平等な関係で、それぞれが自分のできることをすることで支え合う意識が大切です。

2	<b>活動当日の留意事項</b>
---	------------------

以下に書かれている事項は全て当たり前のことです。しかし長く活動していると、いつのまにか独りよがりの行動となっていることがあります。常に初心に立ち戻ってチェックしましょう。

### 1 体の調子に注意

体の具合が悪いとき、心が落ち着いてないときは、よい活動はできません。咳や熱、下痢症状のあるときは、インフルエンザなどの感染症にかかっている場合もあり、そのようなときは他人に感染させてしまう恐れもあります。

体調の悪いときはまず体調の回復に専念し、活動は慎みましょう。

## 2 相手の立場を尊重する

「こうした方がよい」というあなたの考えによる行為が、必ずしも相手に歓迎されているとは限りません。生活のリズムやペースも人それぞれです。歓迎されない行為や話したくない話題もあるはずです。相手の立場を考え、自己をコントロールできる態度が必要です。

ボランティア活動は双方向の活動です。対等な協力者であるという気持ちを忘れず、相手の気持ちを尊重しましょう。相手が何を求めているのか考え、声をかけて、相手の気持ちに合わせて行動しましょう。

自分の考えを主張することよりも、相手の話を聞くことを優先しましょう。

## 3 ルールや決まりごとは必ず守る

ボランティア活動の場所はいわば公共空間です。ボランティア活動は一人ひとりのやりたいという自主的な気持ちが基本ですが、公共の秩序は守らなければなりません。施設では利用者や職員の安全の保持や、サービスを適正に進めるためのルールや方針を決めています。施設の職員や、リーダーの指示には従って活動してください。

## 4 個人情報・プライバシーの保護

信頼関係は秘密を守ることによって得られるといっても過言ではありません。活動に必要なこと、関係のないことを立ち入って聞くことは慎みましょう。

ボランティア活動をしていると、利用者や施設職員の氏名、住所、心身や家族の情報を知る場合があります。これらの個人情報を第三者に不用意に話すことにより、その人に不快な思いをさせたり、不利益を生じさせてしまうことがありますので、特に注意が必要です。

## 5 まずはあいさつから

元気で明るいあいさつは人との距離が縮まりますし、気持ちよく活動できます。上に記載の1～4をチェックしたら、今日も元気なあいさつから活動をスタートしましょう。

作成：平成23年12月

監修：神奈川県保健福祉局高齢福祉課

231-0005

横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階  
社団法人かながわ福祉サービス振興会

管理・経営企画課

電話：045(671)0294 fax：045(671)0295